

越谷市文化連盟
平成23年度

『こしがや文化芸術祭』

平成24年2月19日（日） 10:00～17:00

越谷市郷土研究会 展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター ポルティコホール

テーマ 『光』 絆がつなぐ希望の光

『光、天の岩戸から』

宮川 進

『越谷市内、光明真言の石塔』

加藤 幸一

光、天の岩戸から……

越谷・久伊豆神社には、江戸時代の国学者・平田篤胤が奉納した「天の岩戸開き」という大きな絵馬があります。

―天照大神（あまてらすおおみかみ）が岩戸の中へお隠れになったので、世の中が真っ暗になって、昼夜の区別も出来なくなったため、出てきていただけこうと、天鈿女命（あまのうずめのみこと）が岩戸の前で踊って、神々が大きな声で騒いだ。天照大神がどうしたのかと、いぶかしんで、岩戸をそつとあけてみたとき、力持ちの手力雄神（たじからおのかみ）が天照大神の手を取って引き出した―
日本書紀や古事記をもとにした絵で、中心部から出ている線が光の表現です。

この絵を奉納した平田篤胤には、この越谷に油長・山崎長右衛門をはじめ、塗師市・小泉市右衛門、町山善兵衛などの町人である門人がいました。なかでも山崎長右衛門は、不遇時代の篤胤が著作を出版するのに、その費用を貸したりもした、今で言う「スポンサー」でもありました。

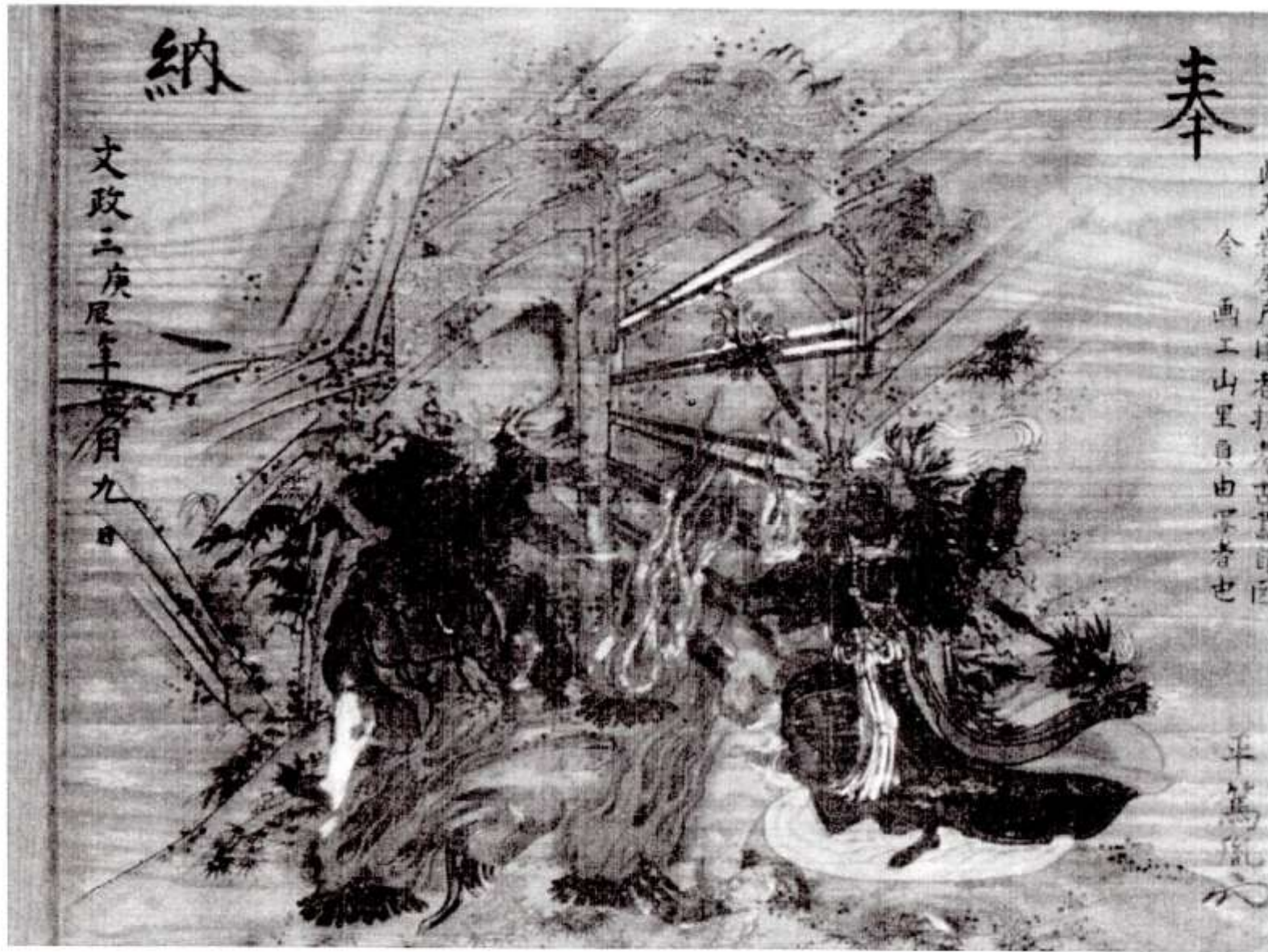
そして、妻を亡くした篤胤に越谷のお豆腐やさんの娘・おりせを紹介し、自ら養親となり、仲人に小泉市右衛門を立てて、結婚させるなどの世話もしました。

「国学の四大人（うし）」といって荷田春満（かだのあずままる）、賀茂真淵（かものまぶち）、本居宣長（もとおりのりなが）の三人と並び称される平田篤胤が奉納した、この大絵馬は越谷市の指定文化財になっています。

真っ暗な世を照らす光が、どこからか差し込んでくることを願わずにはおれない今日このごろではあります。

○絵馬は公開されておりません

（宮川進）



「平田篤胤奉納大絵馬」 川島健司氏撮影 越谷市教育委員会提供

越谷市内

こうみょうしんごん

光明真言の石塔

光明真言とは、密教で唱える呪文の一つで、大日如来の真言である。真言とは、梵字で構成された一種の呪文のこと。この光明真言を唱えたと一切の罪が除かれるという。光明真言を唱えながら土砂を死者にかけると生前の罪がなくなるといわれたのは、そのためである。真言の中に「ペイロシヤナウ」という言葉があるが、これは大日如来を指している。
次にその光明真言を紹介する。

(モ)(ギヤ)(バイ)
 オン・ア・ボ・キヤ・ベイ・ロ・シャ・ナウ・マ・カ・ボ・ダラ・マ・ニ・
 (カー)(ム)
 ハン・ドマ・ジンバ・ラ・ハラ・バ・リタ・ヤ・ウン「休止符」
 (ウーン)
 ① ② ③ ④ ⑤
 ⑥

上記の梵字は、「梵字必携」(児玉義隆氏著)に記載された字体をそのまま使わせていただきました。

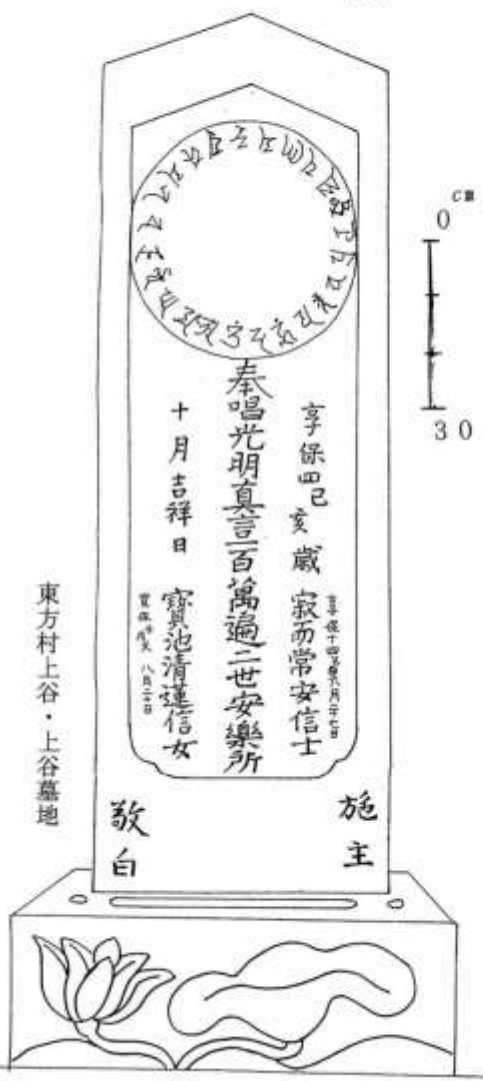
以上の光明真言の字体は、現在使用されているもので、これを標準型とすると、これ以外にも左記のような字体が見られる。

- ① 𑖀 (マー)と表記されたものがある。
- ② 𑖁 や 𑖂 (ベ)、𑖃 (ビ)と表記されたものがある。
- ③ 江戸期の遺物は 𑖄 (ル)を用いている。
- ④ 江戸期の古い形では 𑖅 (ブ)と表記したものが多い。
- ⑤ 異体字の 𑖆、𑖇 が見られる。
- ⑥ 異体字の 𑖈 が見られる。

光明真言を真下から円周状に時計回りに配置して表わしているものは「光明真言曼荼羅」と呼ぶ。中央には、大日如来の五字真言(ア・ビ・ラ・ウン・ケン)の五つの梵字が付け加えられることがある。



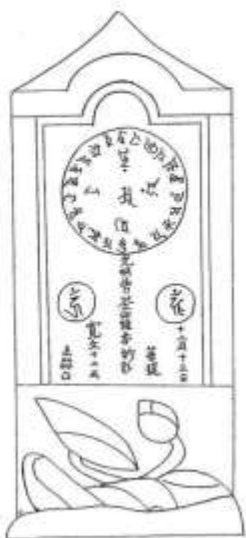
一番



東方村上谷・上谷墓地

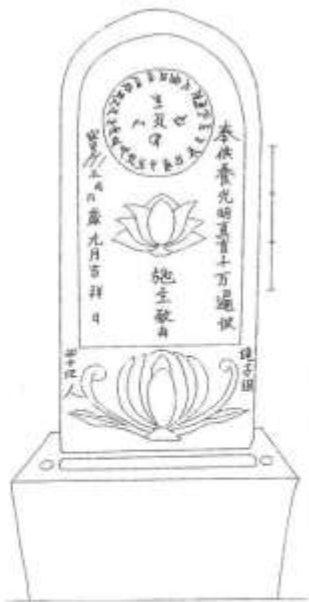
(加藤 幸一)

一番



千疋村・東養寺墓地

五番



荻島村・玉泉院

二番



荻島村・会田家個人墓地

六番



大沢町・弘福院

三番



恩間新田・山崎家墓地

七番



大房村・浄光寺

四番



大沢町・照光院

八番



恩間新田・山崎家墓地

九番

大房村・元荒川土手そば路傍



一四番

荻島村・玉泉院



一〇番

大吉村・鷲後四ツ谷天満宮



一五番

東方村上谷・上谷墓地



一二番

恩間新田・山崎家墓地



一六番

恩間新田・山崎家墓地



一三番

恩間新田・山崎家墓地



一七番

恩間新田・山崎家墓地



越谷市内の光明真言塔の梵字

— 梵字の字体の調査結果 —

- 一 番 寛文二年(一六七二)・千疋村・東養寺墓地
 - ① 標準
 - ② 標準
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 古い梵字
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 標準
- 二 番 元禄二年(一六九九)・荻島村・会田家個人墓地
 - ① 標準
 - ② 標準
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 古い梵字
 - ⑤ 標準に近い異体字
 - ⑥ 異体字
- 三 番 元禄二六年(一七〇三)・恩間新田・山崎家墓地
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 古い梵字
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 独自の字体
- 四 番 宝永三年(一七〇六)・大沢町・照光院
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 完全な異体字
 - ⑥ 標準
- 五 番 宝永三年(一七〇六)・荻島村・玉泉院
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 古い梵字
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 異体字
- 六 番 正徳二年(一七二二)・大沢町・弘福院
 - ① 標準
 - ② 標準
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 古い梵字
 - ⑤ 標準に近い異体字
 - ⑥ 異体字
- 七 番 享保六年(一七二二)・大房村・浄光寺
 - ① 標準
 - ② 標準
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 標準
- 八 番 享保九年(一七二四)・恩間新田・山崎家墓地
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 古い梵字
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 独自の字体
- 九 番 享保二〇年(一七二五)・大房村・元荒川土手そば路傍
 - ① 標準
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 異体字
- 一〇 番 享保二三年(一七二七)・大吉村・鷲後四ツ谷天満宮
 - ① 不明
 - ② 不明
 - ③ 不明
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 不明
- 一一 番 寛保二年(一七四二)・東方村上谷・上谷墓地
 - ① 「マー」
 - ② 標準
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 異体字
- 一二 番 寛保二年(一七四二)・恩間新田・山崎家墓地
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 標準
- 一三 番 宝暦八年(一七五八)・恩間新田・山崎家墓地
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 独自の字体
- 一四 番 明和八年(一七七二)・荻島村・玉泉院
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 標準
- 一五 番 安永二年(一七七三)・東方村上谷・上谷墓地
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準
 - ⑥ 異体字
- 一六 番 天明六年(一七八六)・恩間新田・山崎家墓地
 - ① 「マー」
 - ② 不明
 - ③ 不明
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準に近い異体字
 - ⑥ 標準
- 一七 番 文化二〇年(一八一三)・恩間新田・山崎家墓地
 - ① 「マー」
 - ② 異体字
 - ③ 江戸期の梵字
 - ④ 標準
 - ⑤ 標準に近い異体字
 - ⑥ 異体字

※下段に記載の番号は、筆者の越谷市内石仏調査資料番号

(平成二十四年二月作成 加藤幸一)